

回文の里 作並温泉

第12回 全国回文コンテスト・交流大会 参加者募集のご案内

またまた回文交流大会の季節がやってきました。懐かしい回文仲間との再会、新しい出会いの始まりです。さぁ心も身体もぼっかり温まり、日頃の疲れも癒される“作並温泉”で今回もまた、生涯の傑作、記念作に挑戦してみましょう。

今回の会場は、虹色に輝く大露天風呂で有名な「La楽リゾートホテルグリーングリーン」です。大会要項は下記及び裏面のとおりで。

今回は、**第1部「ことば遊び“自由の部”**、**第2部「ことば遊び“課題の部”**のほか、「**双六で楽しむ即興回文ゲーム**」でたっぷり回文づくりを味わいましょう。

賞品は、今年も豪華なものを準備してお待ちしております。

日時 平成22年2月27日(土) 13時30分～28日(日) 11時15分

場所 宮城県仙台市作並温泉 「La楽リゾートホテルグリーングリーン」
TEL 022-395-2011

大会日程

【2月27日(土)】

- 13:30～14:00 受付
- 14:00～14:15 開会式
- 14:30～16:00 第1部「ことば遊び“自由の部”」
- 16:00～16:40 双六で楽しむ即興回文ゲーム
(終了後に「課題の部」発表)
- 16:40～18:30 フリータイム
- 18:30～20:30 交流会(歓談)

【2月28日(日)】

- 7:30～8:30 朝食
- 9:30～11:00 第2部「ことば遊び“課題の部”」
- 11:00～11:15 閉会式

参加規定

- ①作品を提出するだけの参加はできません。
- ②作品は自由形式とし、これまで受賞歴がないものとします。
- ③作品点数は各部において1人1点とします。
- ④第1部の作品は、適当な用紙(白地)に氏名入りで、黒色ボールペン等で記入し、**平成22年2月10日(水)**までに事務局に郵送してください。申込先のメールアドレスへ送っていただいても可です。
- ⑤第2部の作品は、実行委員会で用意する用紙(白地)に課題を入れて氏名入りで、**黒色ボールペン**等で記入し、**2月28日(日)午前7時**までに事務局に提出することになります。
- ⑥文章において濁点、カナ違い(は・わ、お・を)は許容しますが旧字・変体仮名、(う・ふ)は許容しません。また、長音(ー)の省略も許容しません。
- ⑦作品の著作権・出版権その他の利用権は、いずれも主催者に帰属します。
- ⑧参加者は事務局から**平成22年1月下旬**に送付される本実行委員会主催の**第12回全国回文コンテスト“郵送の部”第1次審査**にあたる権利を有し、その審査結果を**平成22年2月10日(水)**までに、事務局に郵送することができます。



POST CARD

50円切手
をお貼り
ください。

9 8 9 3 4 3 1

仙台市青葉区作並字相ノ沢27
JR作並駅構内

仙台市宮城地区観光案内所
回文の里づくり実行委員会
「第12回全国回文
コンテスト・交流大会」係行

賞 (ことば遊び“自由の部”“課題の部”のそれぞれに該当します。)

- 最優秀賞…… 1名 (作並温泉ペア宿泊券)
- 優秀賞…… 1名 (作並温泉シングル宿泊券)
- 佳作…… 3名 (作並温泉土産品詰め合わせ)
- 特別賞…… 若干名 (作並温泉の各旅館・ホテル等の賞品)
- 奨励賞…… 若干名 (作並温泉等土産品及び学用品等) ※小中学生限定

審査

各賞は、大会参加者及び専門審査員の投票により決定します。

参加方法

参加希望者は、官製はがきか所定メールアドレスに郵便番号、住所、氏名、年齢、性別、職業、電話番号を記入の上、**平成22年1月22日(金)必着**で下記申込先にお申込みください。(作並湯の駅ラサント: info@sakunami-spa.com) 応募者多数の場合は実行委員会事務局の抽選により参加者を決定します。
参加決定者には、平成22年1月下旬に参加案内書を送付します。

参加費

- 一般…… 15,000円 (宿泊料、交流会及び大会運営費)
- 中学生…… 10,000円 (宿泊料及び大会運営費)
- 小学生…… 7,500円 (宿泊料及び大会運営費)
- 日帰り…… 2,000円 (大会運営費)
※地元小・中学生の日帰り参加費は1,000円



第12回全国回文コンテスト・交流大会 申込書

平成 年 月 日

フリガナ	年齢
ご氏名	歳
ご住所 〒□□□□□□	
性別 男・女	TEL () -
ご職業	
通信欄	

申込み・問い合わせ先

回文の里づくり実行委員会事務局
仙台市宮城地区観光案内所
「第12回全国回文コンテスト・交流大会」係
〒989-3431 仙台市青葉区作並字相ノ沢 27
(TEL 022-395-2052 FAX 022-395-2663)

作並湯の駅ラサント
info@sakunami-spa.com

《回文の里づくりのこと》

幕末の仙台に、生涯に一千余の回文を作り、人を喜ばせては楽しむという「廻文師・仙代庵」(1796～1869)がいました。その名は当時、江戸まで知れ渡っていたということです。「みな草の 名は百(はく)としれ薬なり すくれしとくは花のさくなみ」という回文は、作並の美しさを詠んだ氏の代表作です。また、仙代庵は作並温泉開湯の年に生まれました。

そこで、作並と縁の深い仙代庵の偉業を末永く顕彰していくとともに、日本に古くから伝わることば遊び文化としての回文の発展を図ることを目的に、“作並温泉”を“回文の里”とし、多くの人々に回文に親しんでいただきながら、より一層その興隆と発展を図ろうとしているものです。